

今月の一枚



秋の夕暮れ（10月21日、順慶寺本堂境内にて 岡川経康氏撮影）

◆◆ 秋の夕暮れ ◆◆

交差点から見える順慶寺の山門と本堂の屋根。泉田の一つのランドマークとなっている。とりわけ両彼岸の日は、本堂の真ん中（御本尊）のところに太陽が沈むので、神秘的な雰囲気となる。ただ、秋彼岸を越えた晩秋の夕暮れは、本堂脇から漏れた西日が真向かいとなる。

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2021年（令和3年）

11月号

VOL.337

◆ 世間の評判を上げる意味 ◆

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』より、

「下劣なことに従ってはならない
怠け者になってはならない
邪な考へに近づいてはならない
世俗を増大してはならない」（一六七偈）

から出典しました。

この言葉は、釈尊のある弟子が信者の子供から坊主頭をバカにされ激昂していたところに、釈尊が来られ、当の弟子に理解を示して落ち着かせたのち、静かに話しかけ、
「身体的なことと笑うのは下劣です。また、下劣なことに従い、怠けて過ごすべきではない」と、諭したときの言葉です。

私たちは、おうおうにして、自分の欠点や悪いところを指摘されると、傷口を触られたようにひどく痛み、怒りの感情がこみ上げてしまいます。また、世間の評判などに左右されがちになります。しかし、それに従ってさら



今月のブツダの言葉

世俗に従い、世俗の価値を
肥やすものになってはならない



若院のテーマカット NO.31



に感情を激昂させると、つまりは怠けて過ごしたことに等しいと釈尊は諭されます。
ベストセラーとなった『嫌われる勇気』（アブラー著）では、「人間の悩みはすべて対人関係の悩みである」といい、関係性によって行動や感情が変化するとしています。世間や他人の評価ばかりに依存していると、人生に意味を見いだせなくなる。「人生の意味は、あなたが自分自身に与えるものだ」と言い切ります。
やはり、世間の評判を良くするために生きることは、名聞利養として遠ざけ、増大すること（みょうもんりよう）を厳に慎むべきであると頷かれます。

泣い自事 三田の作がせいふをみいふ

書から極楽往生に関する重要な文章

福寿寺の住職は、本山で門主のお供をして諸国を巡回されたという聞こえのある住職。病氣になつて本山から国もとに帰つていたそうですが、ようやく全快できたので、和泉に來られてお話下さるという特別なご縁でした。

教化となると仏教の教えを
方なのかなと思いました。

こ
よう
で、
ご
息
ま
り
ま
し
た。
こ。

という教化が目指すべきあり

親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年

慶讃法要のパンフを配布

本山・東本願寺では、2023年（令和5年）3月26日から4月29日まで、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を本山にて厳修することになっています。

順慶寺においても、本山の慶讃法要の慶事に際し、何らかのご協力をさせていただきたいと考え、二年前にパンフを配布する計画をたてていました。本年10月になり、コロナ感染症もかなり収まってきましたので、まずは、組のあるところにパンフレットを配布させていただきます。個別の護寺会員の皆様には、順慶寺本堂にパンフレットをおいておきますので、報恩講などで参詣されたときにお持ち帰りくだ

さい。左写真下のQRコードでスマホなどにダウンロードも可能です。

以下、本山慶讃法要の概容です。

【慶讃事業の願い】

慶讃法要をご縁とし、あらためて宗祖が頭かにされた教えをいただきなおし、次の世代に教えを相続していくことが、これまでお念仏を伝えてくださった無数の先達から願われています。慶讃事業のあらゆる取り組みは、私たち一人ひとりが、人と生まれたことの意味をたずねていく場を創造していくものです。私たちの次の世代へお念仏を手渡していくために、これから宗門を形づくっていきます。



宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業

ポケットパンフレット



慶讃法要パンフレット表紙

【法要について】

《法要の歩み》

当派では、1872年（明治5年）に立教開宗を元仁元年（1224年）とする宗派決定がなされました。

それに基づき1923年（大正12年）に初めての立教開宗七百年記念法要が勤められ、1973年（昭和48年）には親鸞聖人御誕生八百年・立教開宗七百五十年慶讃法要が勤められました。そして、このたび2023年（令和5年）に宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要を皆様と共に勤めいたします。

《第一期》2023年3月25日（土）

4月8日（土）

《諸仰期間》2023年4月9日（日）

4月14日（金）

《第二期》2023年4月15日（土）

4月29日（土）

【慶讃事業の主な取り組み】

将来の活力あふれる宗門の創造に向け、以下のことに取り組んでいきます。

- ① 宗門の基盤づくりー新たな教化体制の構築ー
- ② 本願念仏に生きる「人の誕生」と「場の創造」
- ③ あらゆる人びとに向けた「真宗の教え」の発信

以上概容

10月度護寺会物故者

釋健勇

10月4日寂 塚本健司(78)

豐明市 塚本初子様の夫

釋尼慈恵

10月17日寂 梅村きみ子(89)

今川町 梅村宏様の母

慈照院釋尼妙華

10月13日寂 岡本みよか(67)

市場下組 岡本晃様の母

編集部短信

◆駐車場入口のポール撤去ー順慶寺駐車場にあったアルミ製のポールを撤去した。撤去したのは、地中に収納可能だったポール。子供がいたずらで引き出していたポールに、順慶寺に参詣された方の車がぶつかって折れ曲がったところを見て、元通り復帰しても危険だと判断し撤去した。

◆寺カフェ開始は来年5月予定ー順慶寺で有志によって運営される予定の寺カフェは、毎月一回一日に開き、来年5月のオープン希望。今後どのように情報伝達するかなど、代表の三人（小林正典氏、岡川経康氏、佐野真澄氏）を中心に内容を詳細に検討する予定。

◆順慶寺本堂で葬儀ーさる10月16日、順慶寺護寺会会計の岡本正博氏の奥様の葬儀が、順慶寺本堂にて執り行われた。順慶寺本堂での葬儀は、本年二回目。順慶寺での

葬儀は、寺院葬形式で行われ、祭壇などを用いない形式。二年前に行った老院葬儀でも同じ形式で葬儀を行っている。

本堂葬儀は、護寺会活動の一環で、ホームページでも紹介されている。

編集雑誌記

このごろ寒くなってきました。老院が亡くなってから、睡眠障害に悩まされ、耳鼻科で診断してもらったら、痩せる他ないとのこと。で減量に励んでいます。早速寒さで風邪を引いてしまいました。コロナが下火なのでいいですが、やはり風邪はいけませんね（住）。

同朋大学での勉強もいよいよ大詰めで、目下卒業論文に取り組んでいます。卒論の提出期限は12月の半ばなので、残り一ヶ月と少しです。いよいよばんやりしている時間も無くなったなと思う日々です。（若）。





11月の主な行事予定

日	曜	行事内容	掃除当番
1	月		
2	火		
3	水	文化の日	
4	木		木-1
5	金	コロナ対策により、諸活動は自粛中 現在、令和4年度より順次自粛解除の予定	
6	土		
7	日		
8	月		
9	火		
10	水		
11	木	助音練習(14:00、順慶寺)	木-2
12	金		
13	土		
14	日		
15	月	泉田同行会議(13:00、順慶寺)	
16	火	大掃除、おみがき(8:30、順慶寺)	
17	水	花立て(8:30、順慶寺) 助音練習(14:00、順慶寺)	
18	木		木-3
19	金	本堂荘厳・会場準備(9:00、順慶寺)	
20	土	当山報恩講(初日、午前のみ)	
21	日	当山報恩講(二日目、午前のみ)	
22	月		
23	火	勤労感謝の日	
24	水	教化検討委員会(14:00、順慶寺)	
25	木		木-4
26	金		
27	土		
28	日	宗祖聖人御命日(7:00、順慶寺にて内勤め)	
29	月		
30	火		

11月行事内容 詳細

11月20日(土)・21日(日)

ともに午前9時半～正午
於：順慶寺本堂・玄關・庫裏

本年も順慶寺最大の法要である、報恩講をお勤めいたします。

本年も、新型コロナウイルスにより、報恩講の日程を二日間とし、左記のように二日とも午前中の法要とする予定です。

基本的に、初日を今川・三河地域、二日目を泉田・尾張地区のご案内とさせていただきます。

本年も、本堂での法要を庫裏と玄關にライブ中継し、間隔を設け70席(本堂35席、玄關15席、庫裏20席)を作ります。増席も可能ですので、人数制限をしない予定です。なお、お斎は今回も自粛致します。

当山報恩講日程

11月20日(土)

9時30分 お勤め

10時15分 法話(正午終了)

講師：市野智行氏

ご案内：今川地区・三河地域他

11月21日(日)

9時30分 お勤め

10時15分 法話(正午終了)

講師：宇治谷顕氏

ご案内：泉田地区・尾張地域他

お知らせ

●報恩講でのコロナ対策について
10月末現在、コロナの感染状況は落ち着いていますが、来る報恩講でも、万全を期して、検温、アルコール消毒を実施し、マスク着用をお願いいたします。体温が37.5度以上の方は、本堂他への入場をお断りすることがあります。

●放置自転車の撤去について
現在順慶寺駐車場に放置してある自転車ですが、報恩講終了時まで駐輪場に移動します。その後、持ち主の申し出がない場合は撤去する予定です。

じゅんこのときめき歳時記

しづがき

みなさん、十月も終わりになって本当に寒くなってきましたね。夏から冬にひとつ飛びに来るので、防寒具や布団入れ替えもあって、準備が大変です。

十月になるといつも、亡くなったお祖父ちゃんや大切にしていた富士柿が沢山実って自慢して食べさせてくれたのを思い出します。富士柿は蜂屋柿(甲州百目)の一種と言われ渋柿ですが、焼酎で渋が抜けるので、お祖父ちゃん、いつもいてねいに一つ一つビニール袋をかぶ

波柿の
波がそのまま甘みかな
千代女

